

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社 グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲 8 5 5 - 1 5
自己評価作成日	平成23年1月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者様のペースに合わせてそのご家族様と職員が一緒になって楽しく暮らす大家族である。そのために「一人ぼっちにしない」「いつも笑顔で語り合う」「楽しく遊ぶ」「楽しくお手伝いする」「ご馳走を楽しく食べる」「体調の変化を読む」を心掛けていていつも賑やかなホームです。
 ・健康管理：体調の変化を隣に住んでいる主治医に直ぐ連絡、指示を得る事が出来る。訪問看護ステーションの協力、病院との連携が良いので、軽度の肺炎、脱水症などホーム内で治療が出来る。終末期治療も家族が希望すれば看取りも出来る（今まで4人看取っている）
 ・地域との連携：小学校の行事（運動会、学芸会）への参加、小学生のあまご訪問、地域の行事（御大師様、お祭り、盆踊り）に参加。（車いす生活の人も参加している）
 ・毎月あまごだよりを発行し、利用者様一人ひとりの様子を担当者がスナップ写真入りで書いて配布している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地区と小学校合同の運動会や学芸会があり、運動会では宝拾いやパン食い競争等、事業所や利用者の出番も用意してくださっている。学芸会の際には、利用者のお一人がキーボードを弾いて他の利用者が歌い、地域の方や子ども達の前で披露された。又、近所の方との日常的な行き来があり、野菜をおすそ分けしてくださったり、事業所に立ち寄ってくれ、利用者とお茶を飲んだりおしゃべりをして帰られることもある。開設から年月を重ねて、地域の方は利用者と接する機会がよくあることで、理解を深めてくださっているようで、事業所や利用者を地域の一員として受け入れてくださり、日常的に交流されている。
 医師である法人代表者のご自宅がとなりであり、毎日訪れておられ、夜間時等、いつでも駆け付けてくれるようになっており、利用者・職員・ご家族の「安心感」となっている。調査訪問時、代表者は体調の優れない利用者の様子を見に来られ、その後ハーモニカを吹いて、それに合わせて利用者が歌を歌ったり、拍手しながら楽しく過ごしておられ、又、訪問看護とも連携を図って、利用者個々の体調管理に努めておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) どじょっこ

記入者(管理者)

氏名 力石 淳子

評価完了日 23年 1月 6日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関先、リビング等に理念を掲示しており、理念は介護の原点として統一した対応が出来るように意識付けをし、実践に繋がるように努めている。	
			(外部評価) 理念の一つに「地域の人とのふれあいを大切にします」と掲げて、事業所では「人と人のかかわり」をととても大切にされている。法人代表者や理事は、地区の役員等を引き受けられ、地域活動等にも積極的に参加しながら地域の方達との関係を深めて来られた。さらに、理念に基づきながら、毎月ユニットごとに職員の目標を決めておられ、1月は「健康管理・人の身になって考える」ことに決めて意識して取り組めるよう、居間に掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域行事の参加、自治会活動への参加など積極的に行っている。地元の小学生の訪問や、運動会、学芸会等の参加もあり、入居者さんが地域の中へ馴染めるように努めている。	
			(外部評価) 地区と小学校合同の運動会や学芸会があり、運動会では宝拾いやパン食い競争等、事業所や利用者の出番も用意して下さっている。学芸会の際には、利用者のお一人がキーボードを弾いて他の利用者が歌い、地域の方や子ども達の前で披露された。又、近所の方との日常的な行き来があり、野菜をおすそ分けして下さったり、事業所に立ち寄ってくれ、利用者とお茶を飲んだりおしゃべりをして帰られることもある。開設から年月を重ねて、地域の方は利用者と接する機会がよくあることで、理解を深めて下さっているようで、事業所や利用者を地域の一員として受け入れて下さり、日常的に交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 内子町グループホーム連絡協議会による認知症の研修会を開催したり、推進会議においてもグループホームへの理解について勉強会を開き学び合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議において、報告、話し合いが行われており、その改善すべき点は、サービス向上につながるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 会議の日にちに合わせて、地域の方の役員会が開催されるようで、会議には地域からの出席者が大勢ある。事業所では、会議を重ねて来られ「地域の方達とのかかわりが密になった」と成果を感じておられた。会議は、地域の方が議長も務めてくださっており、事前に管理者は、自治会長と議題について相談して、医師である法人代表者が、認知症や感染症・緊急時の対応についてお話されることもある。事業所から利用者の現況報告をされたり、看取り支援の事例を報告された際には、ともに支援されたご家族の方も参加してくださった。</p>	<p>会議のあり方のさらなる工夫から、事業所の提供するサービスについての意見を引き出し、事業所のサービスの向上に採り入れて行かれてはどうだろうか。たとえば、実際に、参加者と避難訓練を行ってみたり、日々のケア等についても、外部者からの視点として、見ていただきながら気付いたことや感想を聞き取るような機会等も作ってみてはどうだろうか。さらに、利用者も参加できる会議の工夫も考えてみてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町の担当者は運営推進会議にも参加してもらい、助言等をいただく事もある。また、必要時に応じて報告、相談をしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、町の担当者から成年後見制度について説明していただいたこともある。管理者は、町の担当者とメール等で連絡を取りながら事業所運営をすすめておられる。町内のグループホームが集まり連絡会を結成されている。利用者も参加して運動会を行われたり、町内の方々に認知症の理解を深めてもらえるよう講演会等も開催されており、町にも広報等のサポートをお願いしたいと考えておられた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ユニット別に身体拘束禁止規定を掲示して職員の目に入るようにしている。職員全てが正しく理解しているとは言えないが、身体拘束をしないケアについて全ての職員は前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 気ままに出かけるような利用者の方もおられるが、近所の方が気にかけてくださっており、ご本人に声かけしてくださることもある。職員がそっと付き添い、近くにある「お堂」を参って帰られる方もいる。調査訪問時、出かける利用者を止めることなく、職員は付き添われ、数分後に庭の花を摘んで戻って来られる様子がうかがえた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や各自で研修において学んでおり、介護上で注意すべき点について周知し合い、意識して関わりを持っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等で学べるよう、順次職員が参加出来る形になっている。必要があればスムーズな活用が出来るようにしている。今までも成年後見人制度について対象となる方もおられた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設見学、十分な話し合いのもと、理解して頂き、意見や要望を受け入れて納得して頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には面会時や必要に応じて電話連絡の際、意見、要望をお聞きしている。行事に参加して頂いた際にも気兼ねなく話をして頂けるよう努めている。玄関先には意見箱も設けられている。	
			(外部評価) 事業所では、ご家族への「こまめな連絡」で信頼関係作りに取り組みされている。事業所便り「あまごだより」は、毎月ユニットごとに作成されており、便りの一角は、利用者個々の担当職員がご本人の日頃の様子を記入するようになっている。ご家族からは「ホームでの様子がよくわかり安心する」等、とても好評で、楽しみに待ってられるご家族もあるようだ。時にはお返事や感想をいただくこともある。ご家族の来訪時には、要望等を出してもらえやすいような言葉かけや雰囲気作りに配慮されている。家族会は年に1回、行っておられ、運営推進会議とも重ねて行っておられる。	さらに、ご家族が集まるような機会をさらに活かして、事業所の提供するサービスについて具体的に意見をうかがってみたい。普段の食事を一緒に食べながら意見をうかがったり、薬のことや入浴支援等、ご家族が知りたいことや気になるようなことを探り、個々に合わせて情報提供していかれてほしい。利用する側であるご家族の声はとても貴重であり、事業所のサービスを良くして行くためのきっかけにもなる。意見を具体的に引き出す取り組みに工夫を重ね、サービスの向上につなげていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			勉強会や担当者会議においてその機会を設けてもらっている。	
			(外部評価)	
			職員は、畑作業や共用空間の壁面のレイアウト等、利用者と一緒に出来るよう取り組まれている。又、季節行事のアイデアを提案されたり、ケアのアイデア等を提案しながら、職員で共有して取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			就業規則を頂いている。必要であればいつでも質問等に応じるように努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			勉強会や外部での研修など受ける機会を設けてもらっている。研修を受講できるように声掛けもして頂いている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			町内のグループホーム連絡協議会による合同研修、合同運動会などで交流を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			御家族からの聴き取りやサービスを提供していた事業所などからの話を聞き、安心して過ごせるように対応している。意識して声かけを多くし、現状の把握と寂しさを減らす関わりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ケアプランに反映出来るように利用者には必ず要望や困っている事などを聞いている。ご家族の考えや意見も言ってもらいやすい関係づくりも大切だと考えている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時の「その時」はもちろん、この先も踏まえた上で必要な支援が出来るようにご家族、ご本人から話を聞いている。ご本人、ご家族にとって理想的なサービスが提供できるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来るだけ個別にと考えていて、役割を持って生活をしていただいている。職員との関係もある時は人生の先輩としてアドバイスを受れたり、又、支え合ったりと生活を共にしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や月に一度発行されるお便り等で近況報告をし、ご家族と職員が情報を共有し、ご本人を共に支えていく関係を築いている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方の面会や普段から住んでいたところの話、知人の事など話題に上げている。また、地元の入居者さんはふれあいいきいきサロン幸輪会において昔からの友人との交流も続いている。先日は雨の日に近所の方に遊びに来て頂き、一緒にお茶を飲みながらお話をしたりということもあった。 (外部評価) お若い頃に一緒に職場で働いていた友人が訪ねて来てくれ、居室でおしゃべりをして過ごされる方がいる。又、信心深い方もあり、居間に貼ってあるお札に手を合わせたり、お経をあげたり、近くのお堂にお参りされたり、お大師様のお接待等に出かけておられる。利用者が「ご家族に電話したい」場合には、職員がサポートしてお話できるように支援されている。事業所に入居してから、ご近所の方と親しくなられ、職員と一緒にうかがうようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 雑談やゲームなど皆でふれあい、楽しむ中で入居者さん同士がお互いを認め合えるような声かけ仲介をしている。また、それぞれの個性が発揮できるように努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後も連絡を取り合い、退所された入居者さんから手紙を頂き、近況報告をしてもらったり遊びに来られたりすることもある。いつまでも施設に気軽に足を運んで頂けるよう今後も努めていきたい。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者さん本人から希望や思いを話して頂ける事は多くないが、センター方式を活用し、アセスメントし、会話の中から読み取れるようにしている。入居者さん一人ひとりの思い、希望などを把握するようにしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者とのかかわりを多く持つよう努め、それらの情報をもとに、センター方式の様式等を用いて、利用者の思いの把握に努めておられる。様式等の検討を重ねて、記入しやすいように考えて取り組んでおられるが、利用者によっては聞き取れることに偏りがあるようだ。	利用者とともに生活する中で場面作り等も工夫して、情報収集に努めていかれてほしい。個々の暮らし方の希望やその日の過ごし方の希望を探り、より個別で細やかな支援ができるよう、介護計画につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の事前調査やケアマネージャーとの情報交換、またご家族の面会時においてご本人の経過等を情報収集し把握するようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを把握し、小さな日内変動も見逃さないようにしている。出来る事、出来ない事を決めつけず、残存機能を見極め、把握するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) センター方式を活用し、毎日の少しの気付きもケース記録やふれあいタイムに記入して職員で情報を共有している。ご家族やご本人とも密に話をする機会を持ち、現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) サービス担当者会議を開催して、ご家族・医師である法人代表者も出席して、介護計画は3か月ごとに計画内容について評価を行い見直しをされている。遠くにお住まいのご家族とは電話で近況を報告して要望をうかがうようにされている。ご本人やご家族からは、具体的な要望等はあまり出されないようであるが、職員が日頃の利用者とのかわりの中からの気付きを出し合って話し合い、個々の支援を検討するようにされている。</p>	<p>事業所では「個別支援」「利用者のペースに合わせる支援」に努力されている。今後さらに、利用者の思いや意向を十分に踏まえた支援を実践できるよう利用者主体の介護計画の作成に努めていかれてほしい。職員で介護計画をケアのガイドとして共有できるような仕組みを作り、ご家族等とも共有しながら、支援の内容も拡げて考えてみてはどうか。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の介護記録では、その都度気付いた点、入居者さんが発した言葉とその状況を記入、また入居者さん別にふれあいタイムという表を作成、職員と交わした会話など記入し、他の職員にも情報が共有出来るようにしてカンファレンス時に職員で検討している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族の状況により、希望に応じて出来るだけ柔軟な対応を行っている。ご本人と共に買い物に行ったり、受診や冠婚葬祭等の送迎等。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 入居者さんが日々季節感を感じ、充実した生活を送って頂けるよう地元の小学生、地域の方々、いきいきサロン幸輪会との交流を図り、安心の出来る暮らしを楽しんで頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>在宅時、入所前からのかかりつけ医が希望であればその医療機関にて職員が受診に付き添いしたり、ご家族による受診をしている。ホームの施設長が医師なので入居者の主治医となり、適切な医療が提供できる環境にあり、安心して頂いている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>医師である法人代表者のご自宅がとなりになり、毎日訪れておられ、夜間時等、いつでも駆け付けてくれるようになっており、利用者・職員・ご家族の「安心感」となっている。調査訪問時、代表者は体調の優れない利用者の様子を見に来られ、その後ハーモニカを吹いて、それに合わせて利用者が歌を歌ったり、拍手しながら楽しく過ごしておられた。又、訪問看護とも連携を図って、利用者個々の体調管理に努めておられる。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>入居者さんの健康状態観察をし、変化があった場合にはすぐに主治医に連絡が取れるようになっている。又、訪問看護ステーションと契約しているので、定期的な健康チェック、適切な処置や指導が行われる。訪問看護師には担当者会議にも出席して頂き、入居者さんの健康面の相談にもものって頂いている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>施設長である主治医の勤務先での病院での入院の場合、情報交換、相談等、密に出来ている。それ以外の病院でも情報交換等、密に出来るよう努めている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価)	
			<p>施設長である主治医の勤務先での病院での入院の場合、情報交換、相談等、密に出来ている。それ以外の病院でも情報交換等、密に出来るよう努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>看取り、ターミナルケアについてはご家族と話し合いを持ち、説明、同意を頂くようにしている。入居者さんの状態の変化があれば、主治医がその都度、ご家族に説明をし、今後について希望を確認できるように信頼関係が築けるようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>看取り、ターミナルケアについてはご家族と話し合いを持ち、説明、同意を頂くようにしている。入居者さんの状態の変化があれば、主治医がその都度、ご家族に説明をし、今後について希望を確認できるように信頼関係が築けるようにしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>利用者やご家族には、事業所で看取り支援を行うことが可能なことを説明しておられ、利用者ご家族も事業所で最期まで看てもらいたいと希望されている。となりの法人代表者のご自宅2階は、利用者の終末期等、ご家族が付き添われる場合、泊まっていたりするようにされており、事業所では「ご家族と協力しながら、利用者ご本人を最期まで支えていきたい」と考え取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時、事故発生時マニュアルを作成、確認出来るよう各ユニットに掲示している。定期的に消防署の方に来て頂き、急変時や事故発生時に備えての訓練を行っている。その際には、地元住民の方に声をかけ、参加して頂いている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署、地元の消防団員、近隣の住民の方々の協力を得、定期的に避難訓練をいろんな想定で行い、職員全体で役割を確認している。	
			(外部評価) 事業所は、山間部に立地するグループホームで、周辺地区は土砂災害の危険性のある区域でもある。事業所では昨年の評価実施後に「災害時、事業所が地域にできること」について、検討を重ねて来られたが「地域との関係を深め、協力体制を作る」ことに決められ、いざという時は地域の方達と協力し合い「事業所のできることを一生懸命行う」ことにされた。消防署の方のアドバイスで救急救命法を勉強されたり、利用者個々の居室の入り口には個々の名前等を書いた木の札が掛けてあり、避難が完了した利用者の札を裏向けるように決めておられた。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーに関わる事は、個別に場所、時間に配慮し対応している。日々の関わりの中でも一人ひとりのプライバシー、誇りを大切に、声かけ、接し方にも十分に気をつけるようにしている。入居者さんは人生の先輩であるので常に尊敬の気持ちを持って接している。	
			(外部評価) 理念の一つに「常時会話に心掛け利用者が安心して生活できる環境作りに努める」ことを掲げて、職員は利用者へ、よく言葉かけをされている。利用者は現在、全員女性でおしゃべりが好きな方が多いようである。職員は、利用者となりて記録を取ったり、利用者と一緒に作業をする等、そばに居るように心がけておられた。調査訪問時、もうすぐ誕生日の利用者に「誕生日に食べたいもの」を聞いておられ、誕生日当日にご本人のために皆でお祝いできるように、計画を立てておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ささいな事柄でも自己決定が出来るよう必要に応じて選択肢を変えている。言葉に出せる方もそうでない方も一人ひとりの表情や心の中を感じ取れるように努めている。例えば、その日着る洋服の選択やおやつ等。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 声をかけて、本人の意見を尊重し、日々の生活を無理なく送れるように支援しているが、まだまだ決められた一日の流れになっている事も多々ある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自身で服を選ぶ方には色合いやデザイン等を褒めたり、一緒に服を選びながら楽しんでいる。その人らしく暮らせるよう、自尊心を傷つけないように配慮している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者さんが自らの役割として積極的に台拭き、おかずの取り分け、食器洗い、食器拭きなど職員とともに楽しく行っている。その時間は入居者さんと職員との会話も弾み、楽しい時間となっている。	
			(外部評価) 食事中も職員が食事の内容や味等について「畑でできたかぶよ」「ゆずの果汁の酢ものだから体にいいよ」等、話題を作りながら食事をすすめておられた。湯のみとお茶碗は、ご自分のものを使用されており、他の食器は、介護用の軽い食器を使っておられた。食材を小さめに切ったり柔らかく煮たりされていた。事業所周辺には商店は1つしかないため、食材は町の商店に必要な食材を注文して取りに行ったり、配達してもらったりしている。又、乾物等もうまく使用しておられる。地元で獲れたお米を使用しておられた。居間には今日の食事のメニューを職員が書いて掲示しておられ、利用者が見て楽しみにされるようである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 「バイタルチェック表」にて食事、水分摂取量を記入。一目で過不足が分かるようにしている。自力接種の出来る方は見守り、声かけをし、自力摂取が出来ない方は介助にて誤嚥のない様に食事形態ややわらかさを工夫し、栄養状態、水分摂取に気を配り楽しく食べて頂くようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアの声かけ、介助を行っている。義歯を使用されている方は2日に一度、ポリドントを使用し、清潔を保つようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者さんの排泄パターンを排泄記録にて記録、把握し、トイレの声かけ、定期的な誘導にて介助している。また、立位の取れない方も日中は二人トイレ介助にて対応し、オムツ、パットの使用数を出来るだけ減らすようにし、気持ちの良い排泄を心掛けている。	
			(外部評価) 畑で獲れた野菜やご近所の方からいただく野菜等をふんだんに使用して、便秘予防にも努めておられる。夜間は居室内にポータブルトイレを置いて使用している方も、昼間はトイレで排泄できるよう支援されている。又、入居時や退院時におむつを使用していた方も、状態を見ながら自立に向けて支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然に排便が出来るようにおやつに芋類など繊維の多いものを取ったりと飲食物の工夫や運動の促しもしている。それでも排便コントロールが難しい方には便秘薬の処方にて対応し、体調管理に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夏場は週に3回、冬場は週に2回の入浴を行っている。一人ひとりの習慣や好みを良く聞き、個々に合った入浴をして頂けるようにしている。ご家族の話題やプライベートな話などをしたりと職員にとっても利用者にとっても楽しい時間を過ごしている。	
			(外部評価) 一番風呂を希望されたり、ゆっくり入る等の希望を採り入れたり、入浴中は職員とおしゃべりしながら楽しく入浴される方もいる。現在は、事業所で夏は週に3回、冬は週に2回と入浴の回数を決めておられる。利用者の中には毎日の入浴を希望されるような方もあるようだが、時間や人員の制限のある中で、利用者の希望を聞く難しさもあるようだ。	事業所では、冬も週に3回入浴を支援することに取り組んでいくことも検討されていた。現在は、利用者ご本人から入浴の回数について希望を言われるような方は少ないようであるが、以前の入浴の習慣や好み等をより具体的に知るような取り組みもすすめられ、事業所でも支援を続けられるよう、努力をされてみてはどうだろうか。利用者がより気持ちよく入浴できるような配慮や工夫を重ねて「利用者のペースに合わせた個別の支援」に向けて努めていかれてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日々の睡眠状態の情報を共有している。夜間、ゆっくりと休んで頂くために日中の関わりには十分配慮している。また、その日の体調や日中に休息を取りたい方には休んで頂いている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者の服薬については主治医より説明を受けている。その情報を職員で共有、申し送りノートにて周知出来ている。また、投薬管理表にて個別に服薬の管理をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職歴、趣味などを活かし、キーボードを弾いて頂いたり、家事、軽作業などを共に行い、日々の生活の中で活用、展開できる場を増やしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一緒に買い物に出掛けたり、お花見、内子笹祭り、紅葉狩り等、季節感を味わえるように外出をしている。個別に対応はしているが、身体状況からその回数も少ない方もいる。	
			(外部評価) 町外の温泉施設の足湯に出かけたり、日々の散歩や畑の世話をされたり、又、ご近所の方が、畑のイチゴ狩り等に誘ってくださり、楽しませてくださっている。又、春には、つくしやふきのとう等、山菜を取りに出かけることもある。季節のお花見やサロン、行事等にも出かけておられる。調査訪問時には、上着や帽子、手袋等を着けて暖かくして出かけて行かれる利用者の様子が見られ「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」「寒かった？」等の声かけがなされていた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近隣に店はなく、日常的な支援は出来ていないが、ご本人の希望があると個別に買い物にいつでも行けるようにしている。ご自分で金銭管理されている方もおられるが、ご家族より現金を預かり、買い物を楽しみたい方には、預かったお金より支払いが出来るよう職員が管理している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族や親せきの方にいつでも電話が出来るように支援している。ご自分でかけられない方に関しては、職員が電話代行している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ソファやテーブルの配置を入居者さんの状態によって変え、安全に移動が出来たり、一人で静かに過ごせるような場所があったりと空間作りをしている。季節の花はいつも生けており、季節感を味わえる壁作りも掲示しており、落ち着いたような雰囲気作りをしている。	
			(外部評価) ホームの屋根は、菊間瓦で「あまご」が両端に据えられてある。台所と居間がカウンターで仕切られてあり、職員が食事を作っている様子も見えて、食事ができる匂いがしていた。ホーム内はきれいに掃除をされており、生花を生けておられたり「凧」の飾り等、季節に応じた飾りをされていたり、利用者の様子等が載せてある掲示物等は、利用者職員が考えながら作成されている。腕を上げる運動のできるような道具を手作りされていたり、歌の歌詞を貼り出しておられるユニットもあった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関席にベンチがあり、そこでは気の合った入居者さん同士で話が出来場所になっている。リビングにあるソファにも一人でゆっくりと座ったり、数人が集まったり、また、職員を加えての話が出来たりとつづげる場になっている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なるべく在宅で使用していたもの(イス、時計、湯呑、お茶碗等)を持ち込んで頂いている。壁などにはご家族と撮った写真、身近な人の写真などを飾り、いつも目にとまるようにし、居心地よく過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 日中は居間で過ごされる方が多いが、居室でちょっと横になられるような方もあった。庭で摘んできた花を生けておられる方もあった。ひ孫さんからののお便りや絵が飾られていたり、亡きご主人の写真を大切に飾っておられる利用者もいる。ご自分で使用しやすいように衣類や介護用品を箱に入れておられる方もあった。お気に入りの化粧品やハンドクリームを使っている方やテーブルセットを持ち込んでおられる方もあり、ご家族の方が来られた時には座ってお話をされるようだ。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご本人にとってどうすれば分かるのか、どうすれば出来るのかを、状態の変化に合わせて手順、誘導方法を職員全員で話し合い、環境作りをし、その人の残存機能を発揮できるようにしている。(居室に名前の貼り紙等)	